

ハイリスク新生児への地域フォローアップの現状とこれからの対応

(分担研究：ハイリスク児出生の実態把握と追跡管理に関する研究)

側島久典¹⁾

要約：ハイリスク新生児を対象に通信情報ネットワークによる共有データベースの構築を目指し、担当医療機関と居住地の母子保健サービス（保健所または市町村）との連携したフォローアップ体制のあり方を考えるべく検討を行った。1) 1500g未満児のデータベース作成と共に、今後の母子保健法の改正予定に伴い、ハイリスク児のNICU退院後のフォローアップ体制の強化に必要な地域保健所保健婦等との連絡方法の現況について、NICUをもつ名古屋市立大学関連病院施設につき調査検討した。現状ではシステム化はされておらず、必要に応じて報告がなされていた。中でも「未熟児等退院届・母子連絡票」は保険診療が適応され、訪問指導資料としても有用な方法と考えられた。2) 地域ネットワークをより強化して行く必要があるものの、これらハイリスク児を抱える親に対して総合周産期医療センターの果たすべきサービス、NICU入院当初からの多方面からの母への精神的支えなどの役割について十分な検討が望まれる。

見出し語：ハイリスク新生児、未熟児等退院届・母子連絡票、総合周産期医療センター

研究目的

ハイリスク児退院後のフォローアップ体制の強化と、今後母子保健法の改正に伴い家族への医療サービスの改善によってより快適で受け入れられた社会生活が送れるよう援助したいと考える。1995年1月1日から12月31日までに名古屋第二赤十字病院NICUに入院した1500g未満の極低出生体重児のデータベース作成を分担研究者と共に行った。対象は24名でこのうち超出生体重児は10名全員入院中の症例も含めて生存している。これら症例の退

院後ケアについて地域保健所・保健婦への情報提供を行い連絡を密にすることは、新生児医療への更なる理解を深める為に、また今後母子保健法の改正に向けての体制づくりにも極めて重要と考えられる。

地域保健所との連携

名古屋市立大学小児科関連NICU施設では、保健所への連絡方法は決まった様式もなく、保健所の対応も較差があり連絡が行われない症例も見られた。名古屋市では以前から独自に

1) 名古屋第二赤十字病院小児科

「未熟児等退院届・母子連絡票」を作成し市立病院を中心に情報提供用紙の1つとして使用されることもあった。これは保険請求も130点認められており、本院で検討し、養育医療意見書の主たる対象となっている2000g未満の児、あるいは胎便吸引症候群、仮死に伴う低酸素性虚血生脳症のあったハイリスク成熟児入院例には本票の作成を徹底した。このように地域保健所保健婦によるケアは地域によって様々であるが、ハイリスク児を自院外来でフォローアップしつつ、訓練が必要と思われる児については名古屋市児童福祉センター・地域療育センターにお願いをしているのが現状である。訪問指導は養育意見書の対象者となる2000g未満低出生体重児が主となると考えられるが、絶対数からもハイリスク成熟児もその要請対象として考えられ、NICUをもつ施設との連携を今後更に密にして行く必要がある。

今後の展望

1. 地域保健所との連携
2. 患者家族に提供可能な医療福祉情報の把握
患児の住所によっては通園が困難な場合近隣での施設の紹介も行われているようであるが、家族が十分施設を利用できるような情報をセンター病院が持ち合わせていることが今後特に望まれる。
3. 保健婦への新生児医療の啓蒙：総合周産期センターへの保健婦の出入りによる新生児医療への理解と実状の研修ができればと考える。
4. 出生前（ハイリスク妊婦の時期）あるいは入院直後からの母・家族への精神面への働きかけによるサポート。
母体搬送、胎児情報が性格に把握できるにつ

れて、出生前からのかかわりあいの大切さが改めて認識されている。今回の研究期間中に体制の整備ができた1項目に、常にNICUに出入りする小児精神神経科医師、臨床心理士を導入することによって、入院後の母を始めとする家族の不安が少しでも軽減され、情緒的・心理的サポートが退院後のフォローアップの充実に多大な影響を及ぼすと考えられた。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:ハイリスク新生児を対象に通信情報ネットワークによる共有データベースの構築を目指し、担当医療機関と居住地の母子保健サービス(保健所または市町村)との連携したフォローアップ体制のあり方を考えるべく検討を行った。1) 1500g 未満児のデータベース作成と共に、今後の母子保健法の改正予定に伴い、ハイリスク児のNICU 退院後のフォローアップ体制の強化に必要な地域保健所保健婦等との連絡方法の現況について、NICU をもつ名古屋市立大学関連病院施設につき調査検討した。現状ではシステム化はされておらず、必要に応じて報告がなされていた。中でも「未熟児等退院届・母子連絡票」は保険診療が適応され、訪問指導資料としても有用な方法と考えられた。2)地域ネットワークをより強化して行く必要があるものの、これらハイリスク児を抱える親に対して総合周産期医療センターの果たすべきサービス、NICU 入院当初からの多方面からの母への精神的支えなどの役割について十分な検討が望まれる。